

の礼拝も

救世軍ホームページから

食品・物資などを提供、

ルーマニアでも避難民へ物資配布と交通案内、難民申請の援助などをした。女性や子どもの人身取引の脅威も啓発した。ロシアでも被災者に必要な物資を提供している。

ウクライナでは防空壕（ごう）での礼拝も実施された。ある救世軍士官は「私たちは自分の国に

すべての祈りを聞いてくださると信じる。神はすべての上におられる。神は全宇宙の王。暗い夜は過ぎ去り、明るく平和な日が私たちの

東ヨーロッパ軍国は「東ヨーロッパ軍国の年のテーマは『信仰の気』です。私たちの（伝道者）や兵士（信）は、戦争の真ったたさえ、それを実践して」と語った。

救世軍の国際的リーダーであるブライアペドル大將は平和的解決や避難民、救世軍の活動のために祈りをし、詩篇46篇を読む



OBJホームページから

着し、難民支援を開始した。日本の窓口オペレーションブlessingジャパン（OBJ）は寄付やクラウドファンディング（<https://camp-fire.jp/projects/view/469660>）など支援を募っている。

ポーランド、モルドバ、ハンガリーなどの周辺国で緊急支援にあたるヨーロッパ支部・アメリカ本部の活動を支援する。地域コミュニティを支援するための発電機や燃料を購入し、地元教会に設置された。ウクライナ東部の都市では長期的な食料配布プログラムを実施。西部の関連団体が施設で避難民を迎える。

OBJホームページ <https://objapan.org> で、動画を交えたりポर्टで現地状況を

外に避難している。命か

伝えてい
る。
男性は
志願兵と
して残る
一方、女
性や子ど
もが国内
らから逃れてきた人々に
自宅を解放したクリス
チャン家庭や、オフィス
スペースを難民のための
仮設部屋に変えた教会も
ある。OBJ関連施設には
連日200人の避難民が訪れ
ているという。

ワールドビジョン難民支援 女性人身取引リスク警鐘

3月8日「国際女性界の子どもを支援する国際NGOワールド・ビジョンは、ウクライナ避難の女性、子どもらの人身取引リスクに警鐘を鳴らした。ウクライナでは国家総動員令で18〜60歳の男性が国内に留まる中、難民の大半は女性で、子どもを連れていたり、妊婦でいることも多いという。ワールド・ビジョン中東・東欧地域事務所責任者のエレノア・モンビオ氏は、「近年、欧州で発覚された人身取引の被害者の大半は、バルカン諸

調査の97%以上は女性で、最も危険と考られたと考えられた。人身取引（誘拐）は、65%（34%）（30%）の女性が人身取引のリスクにさらされている」と語った。

オペレーション・ブlessing クラファンで難民支援

国際NGOオペレーションブlessing（OBJ）は、現地パートナー団体とともに、ウクライナ東部紛争地帯での支援活動を2014年から実

3月5日にはOBJ国際災害救援チームがポーランドの国境付近に到



写真提供=WWJ

イ」誌が報じた。ウラセ

沖繩から停戦の求め

ト教学院では、同短期大

性暴力